

●世界の主な地震

平成 22 年 (2010 年) 9 月に世界で発生したマグニチュード (M) 6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

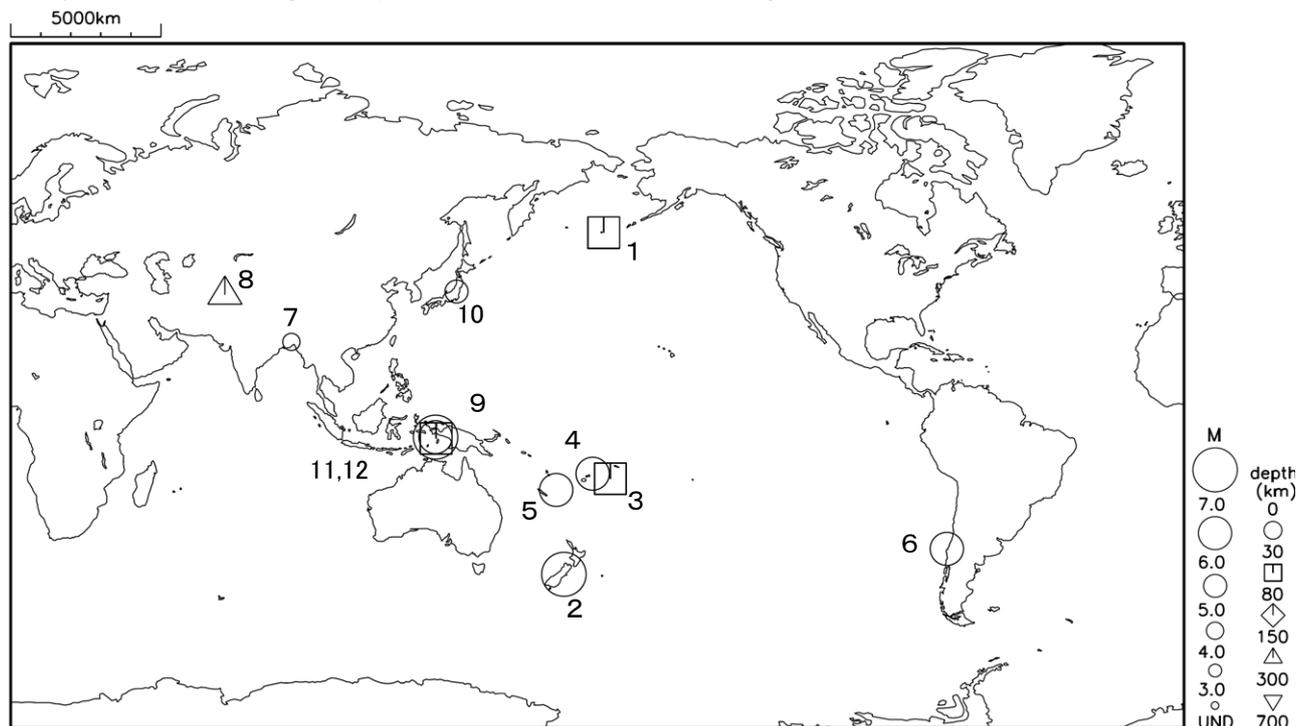


図 1 平成 22 年 (2010 年) 9 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

* : 震源要素は米国地質調査所 (USGS) 発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS (QED) による。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

** : 数字は、表 1 の番号に対応する。

***: マグニチュードは表 1 の mb (実体波マグニチュード)、Ms (表面波マグニチュード)、Mw (モーメントマグニチュード) のいずれか大きい値を用いて表示している。

表 1 平成 22 年 (2010 年) 9 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	印洋	遠地
1	09月03日20時16分	N51° 42.9'	W175° 59.4'	58			6.5	アリューシャン列島 アンドリアノフ諸島				
2	09月04日01時35分	S43° 31.8'	E172° 07.2'	5			(7.0)	ニュージーランド、南島	重傷者2人、6つの橋と多くの建物に被害			○
3	09月04日17時52分	S17° 22.0'	W173° 59.9'	69	5.9		6.1	トンガ諸島				
4	09月08日01時13分	S15° 52.8'	W179° 18.2'	10	5.7	6.0	6.3	フィジー諸島				
5	09月08日20時37分	S20° 40.2'	E169° 49.0'	10	5.9	6.2	6.3	バヌアツ諸島				
6	09月09日16時28分	S37° 00.9'	W 73° 25.9'	16	5.8	6.0	6.2	チリ中部沿岸				
7	09月11日02時24分	N23° 24.7'	E 90° 39.4'	10	4.8			バングラデシュ	ナラヤンガンジで軽微な被害			
8	09月18日04時21分	N36° 26.4'	E 70° 46.4'	220	5.9		6.3	アフガニスタン、ヒンドークシ				
9	09月26日21時12分	S 5° 18.8'	E133° 55.0'	30	6.1	5.8	6.0	インドネシア、アルー諸島				
10	09月29日16時59分	N37° 17.1'	E140° 01.5'	8		(5.7)		福島県中通り	住家一部破損21棟、非住家一部破損7棟、土砂崩れ1箇所など			
11	09月30日02時10分	S 4° 54.3'	E133° 42.6'	10			6.2	インドネシア、パプア				
12	09月30日02時11分	S 4° 55.2'	E133° 46.9'	12			7.0	インドネシア、パプア		○		○

・ 震源要素、被害状況等は米国地質調査所 (USGS) 発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS (QED) による (平成 22 年 10 月 7 日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュード (Ms の欄に括弧を付して記載) は気象庁に、被害状況は総務省消防庁に、Mw の欄が括弧つきで記されている地震のモーメントマグニチュードは気象庁による。

・ 震源時は日本時間 [日本時間=協定世界時+9時間] である。

・ 「北西」、「印洋」各欄の○印はそれぞれ、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA)、及び、インド洋沿岸諸国に暫定提供しているインド洋津波監視情報 (TWI) (地震・火山月報 (防災編) 2005 年 5 月号参照) を発表したことを表す。

・ 「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。

9月4日 ニュージーランド、南島の地震

2010年9月4日01時35分（日本時間）、ニュージーランドの南島でMw7.0（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。今回の地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。この地震により、重傷者2人のほか、多数の建物被害が生じている（米国地質調査所[USGS]の資料を引用）。

気象庁は、同日02時03分に「遠地地震に関する情報」を発表した。

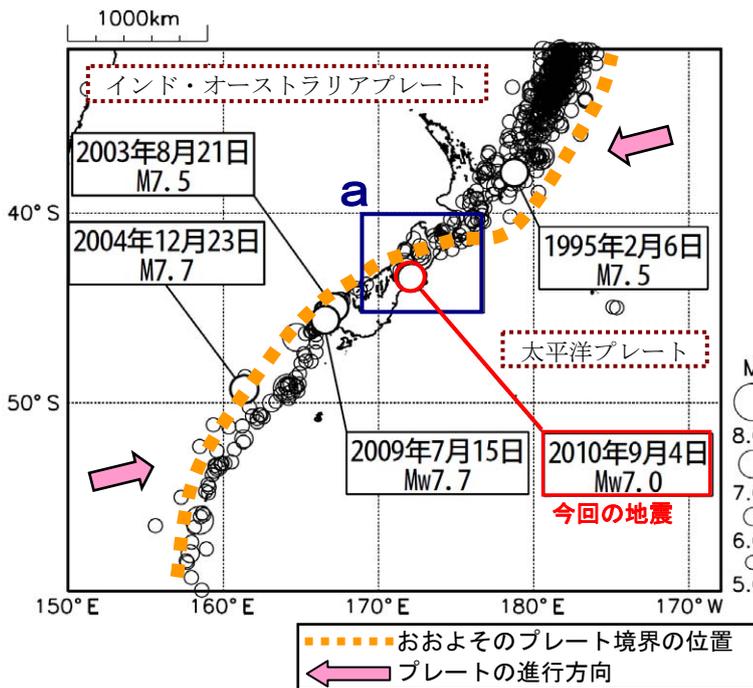
今回の地震の震源はインド・オーストラリアプレートと太平洋プレートの境界の南側に位置し、周辺は横ずれ断層型の地震が多く見られる地域である。

1900年以降の活動を見ると、今回の地震の震源周辺ではM7.0以上の被害を伴う地震が度々発生している。

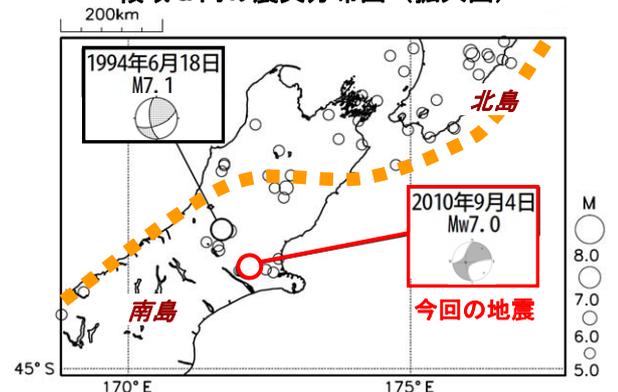
震央分布図（1990年1月1日～2010年9月30日、深さ0～100km、M≥5.0）

※ 震源要素は米国地質調査所[USGS]に、発震機構はGlobal CMTによる。

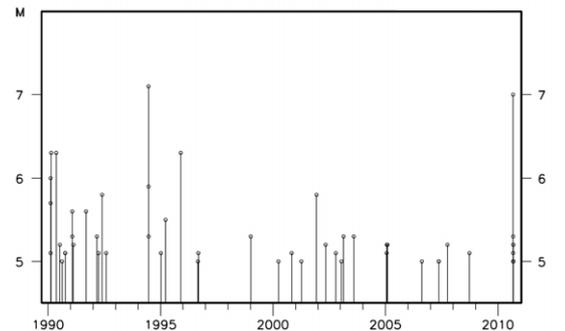
2009年7月15日及び今回の地震のMwと発震機構は気象庁による。



領域 a 内の震央分布図（拡大図）



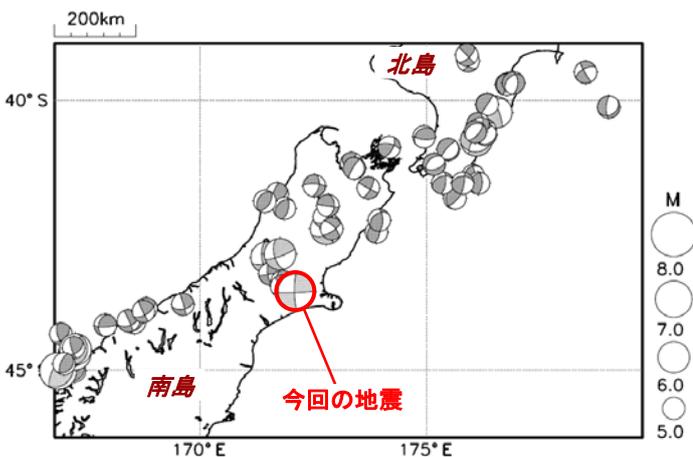
領域 a 内の地震活動経過図



発震機構の分布図

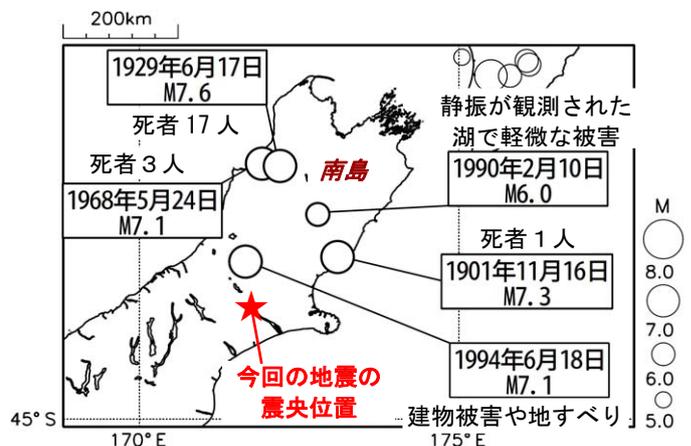
(1990年1月1日～2010年9月30日、深さ0～100km、M≥5.0)

※ 発震機構はGlobal CMTによる。



震央分布図（1900年1月1日～2008年12月31日、深さ0～100km、M≥5.0）

※ 震源要素及び被害は宇津の「世界の被害地震の表」による。1990年2月17日及び1994年6月18日の被害は米国地質調査所[USGS]の資料より引用。



9月30日 インドネシア、パプアの地震

2010年9月30日02時11分（日本時間）、インドネシアのパプアでMw7.0（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。今回の地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、東西方向に張力軸を持つ正断層型であった。今回の地震の約30秒前にはM6.2（米国地質調査所[USGS]による）の前震が発生している。

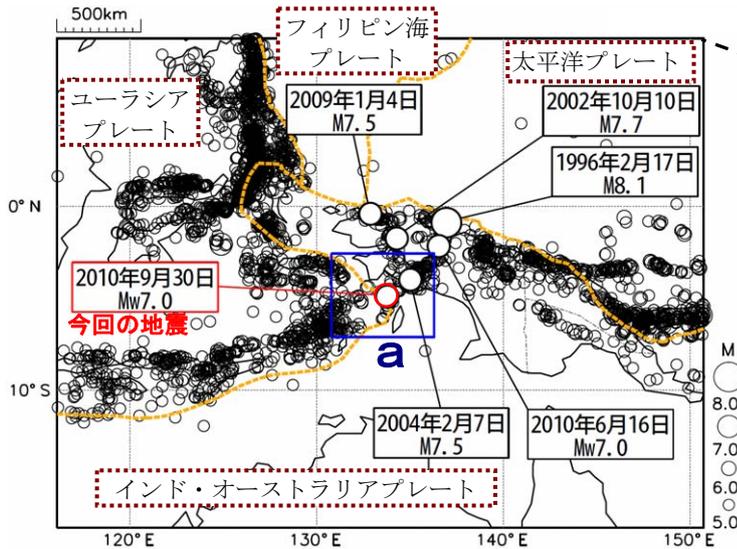
気象庁は、同日02時39分に「北西太平洋津波情報」を、02時49分に「遠地地震に関する情報」を発表した。

今回の地震の震源は、インド・オーストラリアプレートとユーラシアプレートの境界付近に位置し、周辺では、M7.0以上の地震が数年おきに発生している。

震央分布図（1990年1月1日～2010年9月30日、深さ0～100km、M≥5.0）

※ 震源要素は米国地質調査所[USGS]による。

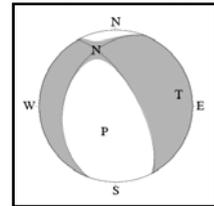
2010年6月16日及び今回の地震のMwと発震機構は気象庁による。



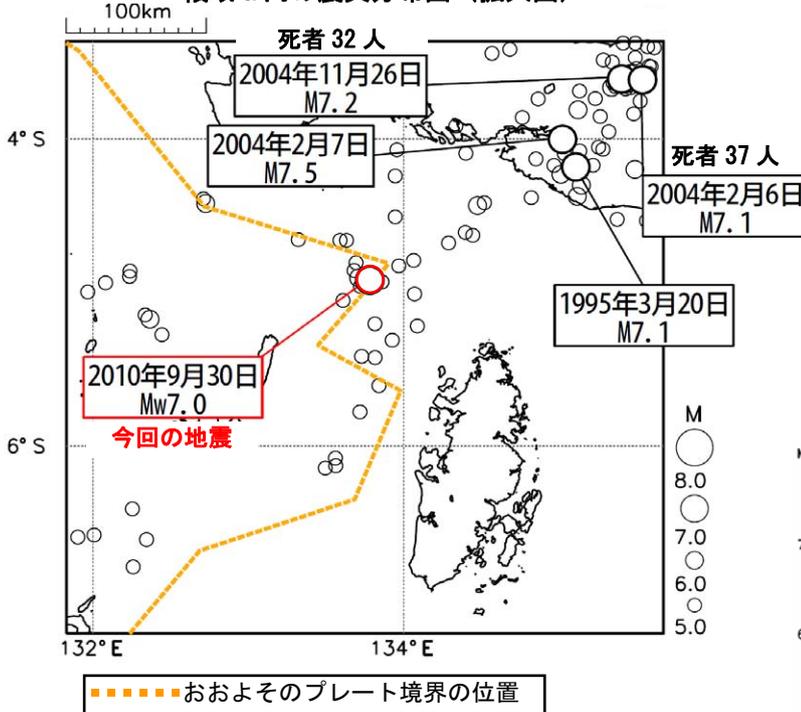
今回の地震の震央位置



今回の地震の発震機構（気象庁CMT解）



領域a内の震央分布図（拡大図）



領域a内の地震活動経過図

